

富士通 2007 年度第 3 四半期決算説明会 質疑応答メモ

日時 : 2008 年 1 月 31 日 (木) 17 : 40 ~ 18 : 40
場所 : 富士通汐留本社 24 階大会議室
説明者 : 代表取締役副社長 小倉 正道

質問者 A

Q. 第 3 四半期の利益実績と通期見通しについて、サブセグメント毎に教えてください。

A. システムプラットフォームの第 3 四半期利益は、サーバを中心としたシステムプロダクトが黒字でした。一方ネットワークプロダクトは、海外での BT21 プロジェクトのような NGN 関連の開発投資負担が響き、赤字でした。通期見通しもシステムプロダクトで黒字ですが、ネットワークプロダクトでは赤字が残ると思われれます。モバイルシステムでマルチバンド基地局の出荷により利益改善が進みますが、フォトニクスでの開発投資が来年度まで続いていく見込みです。

サービスはソリューション/SI が順調に拡大しており、通期の見通しも同様と見ております。インフラサービスも堅調で利益を支えています。

ユビキタスソリューションの第 3 四半期実績は、PC/携帯電話で 120 億円程度の利益があり、ハードディスクで若干の黒字を確保しました。通期の見通しは、PC/携帯電話で 500 億円超の利益を見込んでおります。ハードディスクは垂直磁気ディスクが利益に貢献し第 4 四半期も第 3 四半期に引き続き黒字を見込んでおりますが、上期の赤字を補いきれず、通期ではマイナスが残ります。この結果、ユビキタスソリューション全体で 500 億円の営業利益を計画しております。

電子デバイスの第 3 四半期実績は、LSI で二桁前半の黒字でした。第 4 四半期も二桁の黒字を見込んでおり、第 1 四半期での 100 億円近い赤字を第 2 四半期~第 4 四半期の利益で補い、通期でブレイクイーブンを計画しております。

Q. インフラサービスセグメントの通期売上予測が 200 億円下方修正されていますが、その理由は富士通サービスの為替影響ですか？ソリューション/SI セグメントに含まれる富士通コンサルティングは為替影響はあるのでしょうか？

A. 200 億円の方修正は、富士通サービスの為替影響が主な要因です。また、富士通コンサルティングについては、為替の影響は軽微で、セグメントとしての減収はありません。

Q. マクロな景況感を、国内、海外それぞれについて教えてください。

A. マクロな景況感については、世界規模で減速懸念があり、こういったインパクトが出るか当社としても注視していかなければいけないと考えておりますが、足元の状況について、IT 投資への影響というのはまだ出ておりません。しかしながら、欧米の金融機関の影響を見る限り、目先の投資については絞られていく可能性はあります。しかしながら、当社は欧米の金融機関向けビジネスが、まだそれほど大きくはなく、国内の IT 投資に対する底堅さにも助けられ大きく影響は受けずに済んでおります。IT はお客様のビジネスにおけるベースツールとなっており、IT 投資が継続的に行われてお

ります。そのため、急激な投資抑制はないと思われませんが、現在の景気減速傾向が続くようであれば、当社としても徐々に影響が出てくる可能性はあります。

また、これまでご説明してきました業種別 IT 景況感についてですが、これまでの受注ベースから売上ベースで測ることとしました。内部統制強化に伴う受注計上基準の変更により過去との比較が困難となり、より精度の高い売上計画をベースとすることにしました。傾向については受注ベースとほぼ同じレベルです。

07年度第3四半期実績については、業種全体で前年比104%、通期予測は101%です。これは中間決算時から変更はありません。なお、変動の大きいテレコム系を除いた場合、第3四半期実績で前年比109%、通期見通しは前年比102%と見ています。

産業・流通分野では、アウトソーシング商談やサーバを中心とするシステムプロダクトが堅調で前年比105%でした。通期についても、引き続きビジネス拡大を図り、前年比101%を見込んでおります。

テレコムは、第3四半期実績は前年比81%でした。通期は、マルチバンド BTS や NGN 関連ビジネスが牽引し、前年比91%を見込んでおります。

金融は、メガバンク、地銀、保険証券分野での他社リプレースや大型統合商談により、前年比122%でした。通期も、次期システム商談、保険証券分野でのフロント系強化やコンプライアンス対応等により、前年比104%を見込んでいます。

公共は、官公庁向けの大型商談が堅調。一部商談における売上の前倒しや、文教、科学分野も好調で、前年比126%でした。通期は、官公庁分野を中心に民営化ビジネスやシステム最適化商談が牽引し、前年比105%を見込んでいます。前回、受注ベースでご説明したときは、通期を前年比111%と見ていましたが、これは期間の長い大型商談の受注影響によるもので、全体としては堅調です。

地域については、「後期高齢者医療制度」に関連するシステム商談が好調で、自治体、ヘルスケアを中心に売上を伸ばし、前年比103%伸長でした。通期は、関西を中心に、中国、四国、九州といった地域で徐々にビジネスが拡大しており、全体で前年比101%を見込んでいます。

メディア・エネルギーでは、エネルギー分野の自由化に対応するシステム再構築商談や、自営網の IP ネットワーク化商談が活発で、前年比109%となりました。通期も、メディア分野における未開拓市場の開拓や、エネルギー分野向け料金・設備・会計ソリューション商談の活性化により、前年比104%を見込んでいます。

ヘルスケアは、大学病院の病院情報システム更新商談を中心に売上が伸長し、前年比148%でした。通期は、電子カルテシステムやオーダエントリシステム、及び周辺システムのビジネス拡大により前年比103%を見込んでいます。

質問者 B

Q. 第3四半期の業績が会社想定より上振れています。その要因はサーバの復調やサービスの好調さで説明できますか。それを継続できると考えていますか。

A. 第3四半期は、UNIX サーバの SPARC Enterprise が、国内向けや海外のサン・マイクロシステムズ向けで好調に推移し、PC サーバ売上増も収益に貢献しました。

一方、第4四半期でのサーバビジネスの計画を弱めにしています。ビジネスが期末に集中しておりリスクを見ているからですが、足元のビジネス状況からいくと、もう少

し業績数値の上乗せがあるかもしれません。

またサービスについては、ソリューション/SI、インフラサービスとも第3四半期は堅調に推移し、第4四半期もこの流れが続くと考えています。

Q. 2008年度の富士通が考えるITの景況感を教えてください。

A. IT関連の売上は堅調に推移していますが、これを継続してプラスアルファを目指します。富士通本体でのビジネス基盤の拡大やSE子会社の努力による個別ビジネスの拡大で収益の源泉が育ってきています。

質問者C

Q. 為替影響について教えてください。

A. ドルについては、従来1ドル=115円と想定していましたが、今回1ドル=105円に見直しました。なお、第3四半期の期中平均レートは1ドル=113円でした。これによって第4四半期の営業利益には約30億円のマイナス影響を見込んでいます。

ユーロについては、ほとんど影響はありません。

一方、ポンドについては、1ポンド=230円と想定していましたが、1ポンド210円に見直し、これによって第4四半期の営業利益に十数億円のマイナス影響があるものと見込んでいます。

ドルの変動影響額には新光電気分も含まれており、その中の大きな割合を占めていません。

Q. 半導体の受注環境は、3ヶ月前と比較してどう変化していますか。また2008年度の見通しについて教えてください。

A. 市況の弱含みは想定していたよりも少し長引く可能性があると考えています。昨年秋頃には、年明けから回復してくるものと見ていましたが、春以降にずれ込むものと考えています。これが売上や利益に多少マイナスの影響を及ぼし、通期ではブレイクイーブンになるものと予測しています。特にロジック製品を中心に弱含みです。

工場稼働率については、前回予想時(2007年11月)において下期が先端製品で90%台半ば、基盤製品で80%半ばを見込んでいました。先端製品の第3四半期の稼働率は100%でしたが、第4四半期は携帯電話向け製品を中心とした受注減により90%程度になるものと見ています。この影響が第4四半期および2008年度第1四半期に影響してくる可能性があります。

一方、基盤製品については第3四半期の稼働率は80%台前半でしたが、第4四半期には80%台半ばに回復してくるものと見込んでいます。

2008年度にかけては携帯電話関連や、産業機器、半導体製造装置向けが弱含みと見ています。

Q. サーバ事業は収益性の改善が進んでいるようですが、改善の寄与度は国内と海外で比較するとどうですか。また、新たなユーザーはどのような業種なのか教えてください。

A. 確かにサーバ事業の回復感強いものがあります。国内ではPCサーバが改善しています。SPARC Enterpriseについては、国内・海外ともに収益改善に寄与しています。お客

様としては通信分野、金融分野が中心ですが、そこだけが飛躍的に伸びているという訳ではありません。また金融分野については来年度にかけてどのように推移するか注視していく必要があると思っています。

UNIX サーバについては、丁度切り替え時期にフィットしており、旧機種からの切り替えが順調に進んでいます。

質問者D

Q. 第 3 四半期営業利益の対計画比での上振れ要因について教えてください。また、営業利益が第 3 四半期で 267 億も上振れたにもかかわらず、通期では 50 億しか上方修正していないのは、何故ですか？

A. サーバがコストダウン、費用効率化によって好調に推移しました。PC についても、ボリュームゾーンを中心に好調に推移したことや、メモリーを中心とした部材コストの低減によって計画を上回りました。サービスも底堅く推移し、計画を上回りました。全社的に、費用の効率化が功を奏し、計画を上回る事が出来ました。年間で 50 億しか上方修正しなかったのは、第 4 四半期の売上集中リスクやハードディスクの価格下落リスク、半導体市況悪化などを織り込んだためです。

Q. 海外子会社の第 3 四半期実績、通期の予測を教えてください。

A. 富士通サービスの営業利益は、第 3 四半期が 46M ポンド、通期は 165M ポンドを計画、富士通コンピューターシステムズの営業利益は、第 3 四半期が 10M ドル、通期は 25M ドルを計画、富士通コンサルティングの営業利益は、第 3 四半期が 7M ドル、通期は 25M ドルを計画しています。

Q. 分社化後の半導体事業について教えてください。

A. 100%子会社化というのは決定していますが、それ以外については、まだ決定していません。

以 上